



## 特集「SAT」て何？

海城中学高等学校グローバル教育部

### 変わる大学入試制度

「共通一次試験」(国公立大学のみ)の実施は1979年、「センター試験」(私立大学も参加)に変わったのが、1990年でした。保護者の方々は「センター試験世代」でしょうか。センター試験になってからは、リスニングの導入などマイナーチェンジが何回かされてきました。しかし社会情勢等の変化を鑑みて、数年後に試験制度の大きな改革が予定されています。それに先立ち、文部科学省の中央教育審議会による新たな大学入試制度案が、今秋にも答申されることになっています。

今回の答申のキーワードは「達成度テスト」と「多面的評価」でしょう。大学教育を受けるにふさわしい学力を確認した上で、論文や面接などを課して学習意欲や適正を計ろうというのがその主旨のようです。その新テストのモデルの一つとなっているのが、アメリカで実施されている「SAT」(Scholastic Aptitude Test)です。

SATは、1926年にスタートし、何回かの改訂を経て現在に至っています。「読解」「論述」「数学」で2400点満点。年に7回実施されており、複数回受験することが可能です。満点をとる受験生もけっこういるとのこと。日本人も受験可能です。

勿論、アメリカの大学はSATの試験だけで大学の合否を決定するわけではありません。各大学とも独自の選考方法を採用しています。例えば、MIT(マサチューセッツ工科大学)は次のような選考方法をとっています。

SATなどの得点、高校の成績、課外活動の実績などのほか、論文や面接で総合判定。一定レベルの願書について、12人以上の会議で論議する。

(2014/8/29 読売新聞朝刊掲載記事より)

そして、MIT入試担当部長マット・マクギャン氏によると「科学技術でエネルギー、水、貧困問題など世界の重大課題を解決する」という大学の使命を担える人物を選考する、という。選考担当職員は18人で、最低12人以上の選考会議で審議する。10月後半から願書を読み、3月14日(円周率に因んでこの日にしたとのこと)に合格発表をすることです。昨年の出願者は1万8989人(約2割超が海外からの出願)で、合格者は1548人。合格率は8%(ハーバード大学の合格率は6%)という超難関入試だそうです。(2014/9/8 読売新聞朝刊掲載記事より)しかし、アメリカの大学入試制度の根幹をなしてきたSATにも、塾による試験対策の蔓延等の問題があり、2016年には改訂されることになっています。

さて、日本の大学入試はどのように変わのでしょうか。この問題は、小・中・高等学校の教育課程にも関わる重要な問題です。中央教育審議会の答申後にまた取り上げたいと思います。

文部科学省では以下のようなことを審議しています

### 試験内容

- 試験教科・科目は、6教科(国語、数学、外国語(英語)、地理歴史、公民、理科)を想定してはどうか。
- 外国語は外部試験の活用も検討してはどうか。
- 基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、知識・技能の活用力、思考力・判断力・表現力を測る問題も含めることとしてはどうか。
- 専門教科や保健体育、芸術、家庭、情報等、多様な分野での学習成果は、外部試験検定を評価する等により行うこととしてはどうか。
- 各個人、高校の判断で、テストの部分的な活用を行うことも可能としてはどうか。

### 試験形態

- マークシートを原則としてはどうか。

### 受験回数・実施時期

- 高校2年及び高校3年の受験を可能とすること、各年2回程度の実施を検討してはどうか。
- 高1からの受験も可能とするか。
- 実施時期はどう考えるか。

ところで、海外の大学を目指すには様々なテストで高いスコアを得ることが必要になってきます。グリーンネル大学に通う大村君に、アメリカでの近況と合わせて、自身のSAT体験を報告してもらいました。

### 一年目を終えて+ SAT 対策

大村 崇寛

皆さん、お久しぶりです、グリーンネル大学の大村です。5/16をもってグリーンネルでの一年間を終えました。長いようで短く、濃密な一年でした(正確には8ヶ月ぐらいですが)。グリーンネルに到着した8月が昨日のことのように思い出せますが、そこからの道のりを考えると、大変だったなあ、と少し感慨深いものがあります。いや、課題に追われて、週末を楽しみに生きていた毎日を振り返ると、感慨というよりも、一年間を生き抜いた達成感、の方がしっくり来るかな…?

帰国後、僕はこの二ヶ月間何をしていたかということ、タイ・ベトナム・韓国を旅行していました。旅行先では友達の家泊めてもらったので、実質交通費と食費のみで旅行できました。泊めてもらった先の友達は母国語を喋れるので、スムーズに楽しく旅行でき、感謝しています。ちなみに泊めてもらった三人のうち二人は日本に旅行に来たので、僕の家に来てもらい東京を観光しました。

渡米してからの生活については次号でお話するとし…

さて、今回メインに話すことは、ズバリSATについてです。SATはScholastic Aptitude Testの略で、簡単に言うとアメリカ版センター試験です。一番大きな違いは、実質何度でも受けられるということ(僕は4回受けました)。Critical Reading, Math, Writingの3つのセクションから構成されており、それぞれ800点満点の計2400点満点です。Critical Readingは語彙問題と長文読解、そしてWritingは文法問題とエッセイが出題されます(Mathは数学用語以外中学生レベルなので説明を省きます)。

※注意事項: SATの試験形式は2016年春に改訂されますのでご注意ください。詳しくはこちら

: <http://www.newsweekjapan.jp/reizei/2014/03/post-633.php>

次は対策・勉強法について。全て現行形式に基づいています。細かい解法などは省き、最も大事なことを（自分がしないで後悔したことを含め）まとめたつもりです。SATを勉強する人の為になればと思います。

#### ①語彙問題

難解な語彙が非常に多く、特別の対策が必要。僕はAmazonや英語のサイトでおすすめの単語集を探し片っ端から覚えました。ネットにも無料の単語集があるのでそちらでも可。語彙は地道に固めていくしかありません。ひたすら覚えましょう。

#### ②長文読解

大切なのは速読と内容理解、この二つを両立すること。練習あるのみ。1セクション25分と決まっていますが、それを短縮して解く練習を積むと、本番でも時間に余裕ができ、落ち着いて問題に取り組みます。問題を解く以外では、なるべく読書を楽しみましょう。名作と言われる本を読むことで、内容理解力、速読力、語彙力は自然と向上するでしょう。

#### ③文法問題

文法問題はパターン暗記に尽きます。ひたすら問題を解くにつれ、出題される問題にパターンがあることに気付くでしょう。問われる文法事項の種類は限られています。十分に練習を積めば、反射的に問題が解けるようになります。

#### ④エッセイ

SATのエッセイはTOEFLと違い、25分でエッセイを一つ完成させなければいけません。問題を見てから書くことを一から考えていると、とても時間が足りません。そこで、SATエッセイにおいて基本になるおすすめの構図を紹介します。

エッセイの構図

- Introduction : 導入、これから挙げる例を紹介。
- Body : 例を2つ使うとバランスが良い。
- Example 1
- Example 2
- Conclusion : 簡潔に結び。

SATのエッセイはbodyに全てを詰め込んで、他は適当に取り繕ってしまっても大丈夫です。ここで重要なのは、Bodyで使う例はあらかじめ用意しておくということ。問題が分からないのにどう用意しろと言うのだ、と思うかもしれませんが、SATに出題されるエッセイのどんな「お題」にも対応できる例を考えておけばいいのです。ここで扱う例では、なるべく「自分」を使わない方が賢明でしょう(どうしても自分の経験を語ると証拠的な部分が弱くなってしまいます)。そこで、有名な人物や文学を考えるのが最も簡単でしょう。例えば、スティーブジョブスやグレートギャツビー。人物の生涯、生き方、考え方、そして文学作品の内容、教訓、登場人物の考え方などを簡単にまとめておくと、驚くほどエッセイを書くときに役立ちます。少しやってみるといかかもしれません。

ただらと文章を書きましたが、結局は練習が全てです。勉強の基本的な方針は受験と同じです。インプットをアウトプットを効率的に行っていきましょう。

※数学の問題は以下のようなものも出題されます。(SAT対策問題集より)

If  $3a + 4b = b$ , which of the following must equal

$6a + 6b$  ?

解けますよね!!

#### イングリッシュキャンプ報告

今夏のイングリッシュキャンプは以下のように実施されました。

実施内容	英語研修		
期 間	第1隊 8月18日～8月20日		
	第2隊 8月20日～8月22日		
場 所	菅平 大原学園ビーカークラブ		
参加者数	第1隊 中学2年生 102名		
	講師 11名		
	引率 7名	参加者合計	120名
	第2隊 中学3年生+高校1年生 79名		
	講師 11名		
	引率 5名	参加者合計	95名

中学2年生のプログラムも昨年のもからマイナーチェンジされ、更に「中3+高1」という新しいプログラムも実施されました。

このイングリッシュキャンプの一つの特色は、本校に外国人講師を派遣している会社と本校の当該学年英語科、そしてグローバル教育部が一体となってプログラムを作っているということです。従って本校独自のものとなっています。来年は、来年の学年により適したプログラムとして実施されます。本年度の様子は「海城ホームページ」の『海城プレス』に詳細に記録されていますので是非ご覧下さい。(文章は引率英語教員による英文です)

#### 「出納君を囲む会」報告

前号でお知らせしました「出納君を囲む会」を9月6日に開催しました。当日は、イギリスのKING'S COLLEGE LONDONに進学した出納君から、海外の大学を目指すきっかけ、海外大学進学には何が必要か、大学生活やイギリス生活について詳しく聞くことができました。参加者は生徒7名、保護者5名ほどで少なめでしたが、その分濃密な2時間を過ごすことができました。会の終了後も、参加した生徒諸君の質問に答えてもらうことができました。

出納君は、イギリスでの大学生活についてまた報告してくれるそうです。楽しみにしててください。

